
行歯会だより -第62号-

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会) 2011年1月号

行歯会会長から新年のご挨拶



睦月雑感

佐賀県伊万里保健福祉事務所 岩瀬 達雄

「暑中不乱異国高嵐熱変」

これは何かおわかりですか？

おまじない・・・ではありません。日本漢字能力検定協会が公募で選ぶ「今年の漢字」、昨年の上位10の漢字を順に並べたものです。うーん、何とも不気味な雰囲気伝わってきます。

今年は、赤い目の白いうさぎ、紅白でめでたい1年になるといいですね。

昨年を表す漢字は、「暑」でしたが、平成23年は、「寒」で幕が開けました。寒気が居座って風雪被害もたくさん報告されましたが、寒いのはそれだけではありません。政治も外交も経済も、そして私たちのフットコロも寒い状態が続いています。何より深刻なのは学生の就職内定率が低いことです。学生と企業側の考えにズレがあることは今に始まったことではありませんが、何

といっても経済が上向かなければ企業も安心して採用することができません。

行政においても、税収が増える様子もなく財源の問題は解決されないままです。削られた予算と人で最大の効果を出すことが求められています。一方で、緊急対策と称して大きな基金の造成や、ばらまき？とも思える施策がどんどん増えるのは、なんともいえない気持ちです。考えているだけで、だんだん「熱」なくなってきました。

今年は春に、統一地方選挙が行われます。新たな潮流の出現を期待しましょう。

さて、昨年、厚生労働省の上条英之歯科保健課長、日本歯科医師会の久保満男会長、日本歯科衛生士会の金澤紀子会長を訪問しお話を伺うことができました。会談の様子や寄稿を行歯会だよりで読まれた方もおられると思いますが、とにかく、先生方の行歯会に対する期待の大きさに感動しまし

た。また、各地で条例が制定され、今年は条例に基づいた施策のスタートの年。多くの方々の期待に応えるために、行政に携わる歯科医師、歯科衛生士が連携を密にし、それぞれの地域で頑張ることができる、これこそ行歯会の真骨頂といえましょう。

さあ、今年も、「世界に誇れる日本の歯科保健」の実現に向けて、行歯会会員みんなで取り組んでいきましょう。



○ 編集後記

奈良県の堀江です。北海道の佐々木先生の後を引き継いで、この1月号から1年間編集を担当することとなりました。よろしくお願いいたします。現在は相方の名古屋市の金森理事の下、修行中の身です。

本誌は会員のみならず歯科医師会、厚労省歯科保健課、8020財団等関係の方々の目にも触れますので歯科行政について相互理解を進めるツールの一つとして役立つものにしていきたいと思っています。

1月号は岩瀬会長の熱いエールでいっぱいになりましたが、次号からは各地方の情報を掲載して参りたいと思います。多くの会員の方が少しずつスペースを担当することで内容充実を図れたらよいなと思っています。ブロック理事経由で皆様に原稿執筆依頼を行う予定にしていますので、依頼を受けた方は快諾していただきますようお願い申し上げます。

<地域のゆるキャラ紹介（奈良編）>

奈良県のキャラクターといえば「せんとくん」
昨年12月31日で平城遷都1300年祭は終了しましたが、「せんとくん」は今後も活躍するそうです。①



平城遷都1300年祭のマスコットキャラクター
「せんとくん」